

# スポーツが及ぼす人間関係

—BSC に着目して—

槇村俊哉 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード (コミュニケーション、人間関係、BSC)

## I. 諸言

近年、情報化や機械化が進んだことにより、人とのコミュニケーション不足が問題になっている。学校でも児童生徒の暴力行為やいじめが、深刻な状況になっている。人間関係の希薄化や社会性が身についていないことが問題として挙げられている。スポーツは、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するものであると言われている。

そこで、本研究は、スポーツは人間関係を良くするのかを調べ、子ども同士が仲良く、意欲的に取り組めるような活動環境等をつくるにはどうすれば良いか検討するものである。

## II. 調査方法

本研究の調査対象は、総合型地域スポーツクラブ BSC (以下 BSC と呼ぶ) のバスケットボール (25 名)、サッカー (41 名)、陸上 (43 名) に所属している小学校 3 年生～6 年生の計 109 名の児童を対象にアンケート調査を行った。15 の質問について「当てはまる」を 4 点、「まあまあ当てはまる」3 点、「少しあてはまる」2 点、「当てはまらない」1 点の 4 つの選択肢に分け、点数化し、その結果から種目ごとに児童の満足度や不満度を比較した。

## III. 結果と考察

BSC の児童にアンケート調査を行い、15 項目の質問全体平均が 3.05 と非常に高い結果が出た。中でも、「BSC の活動が楽しいと感じている」について、平均が 3.65 で、最も良い結果が出た。このことから、集団の中で満足に活動していると考えられる。杉田洋 (2009) も同様の結果を報告している。自由記述では、「友だちがたくさんできた。」「友だちと良く

遊ぶようになった。」などの意見も多くあった。このことから、スポーツは人間関係を豊かにしていると思われる。

また、子ども同士が仲良く、意欲的に取り組めるような活動環境等については、「困ったときはリーダーや友だちに話しができる」が、平均が 3.17 で、比較的コミュニケーションが取れていることがわかる。しかし、「リーダーの話を中心して聞くことができる」は、平均が 2.63 で、指導者の説明を聞こうとする児童が少ないと考えられる。指導者は、メリハリをつけた、指導が必要だと考える。「自分の意見をはっきり言える」に対しては、平均が 2.74 で、自分の考えていることを表現できる児童が少ないようである。中心人物や指導者が話すだけでなく、1人1人の役割を与え、作戦やコツなど児童の話し合いの場を作り、児童が意見を言えるような環境を作ることが大切だと考える。

## IV. まとめ

アンケート調査から、スポーツは人間関係を豊かにしており、活動を通して、目標をつくるのが大切だと考える。みんなで励まし合い、共に達成感を味わっていくことで、課題を解決する力や信頼関係ができ、より良い人間関係が形成する。それにより、近年、問題になっている、児童生徒の暴力行為やいじめなどの人間関係の希薄化問題を防止できると思われる。今後は、個々に着目し、課題のある児童がスポーツを通してどのように成長していくか、研究していきたいと感じている。

## 参考文献

杉田洋 (2009) よりよい人間関係を築く特別活動 72-100 208-236

